

客観的評価指標（案）及び調書（案）

令和〇年度 公共事業再評価対象事業調書

No. 〇

1 事業の概要

事業名	〇〇事業 〇〇〇〇線(〇〇バイパス)	事業区間	〇〇区〇〇〇〇〇町 ~ 〇〇区〇〇〇〇〇町	事業所管課	〇〇〇〇課
事業の目的 及び概要	(キャッチフレーズ:〇〇〇を整備します) 本路線は、〇〇〇である。 本事業は、〇〇〇するものである。			延長、幅員、面積	
				延長L=1,000m、幅員W=20m 用地買収面積A=10,000m2	
				主な事業効果	
				渋滞解消 災害時のリダンダンシー確保 浸水被害の軽減	
説明資料(箇所図・模式図・断面図等)					

2 事業の必要性等に関する視点

〇〇事業 〇〇〇線

(1) 事業の進捗状況

都市計画決定	平成〇〇年度	全体事業費		10,000 百万円	令和2年度まで （決算額）	令和3年度 （決算額）	令和4年度 （予算額）	残事業費	進捗率(実施数量) 完了／全体
事業採択	平成〇〇年度	（ 内 訳 ）	工事費	4,000 百万円	2,000 百万円	500 百万円	500 百万円	1,000 百万円	20.0 % 100m/500m
用地着手	平成〇〇年度		用地費	5,000 百万円	3,000 百万円	100 百万円	100 百万円	1,800 百万円	60.0 % 600m2/1,000m2
工事着手	平成〇〇年度		その他 （設計費等）	1,000 百万円	500 百万円	50 百万円	50 百万円	400 百万円	—
完成予定	当初 平成〇〇年度	年度別事業費		—	5,500 百万円	650 百万円	650 百万円	3,200 百万円	—
	変更 令和〇〇年度 （事業認可最終年度）	進捗率 （執行事業費）		—	55.0 %	61.5 %	68.0 % （進捗見込み）	—	—
進捗状況の説明 事業計画の変更等	前回再評価時の対応方針「〇〇〇〇」を踏まえ事業の進捗を図った。 令和〇年に〇〇を実施した。 令和〇年に事業計画を変更し、完成予定年度を〇年延伸した。								

(2) 事業を巡る社会経済情勢や地域状況等の変化

近年の〇〇により、本事業の必要性が高まっている。 本事業の周辺では、〇〇等の地域状況の変化が見られる。
--

(3) 上位計画における事業の位置付け等

計画名	事業の位置付けや具体的な効果等
はばたけ未来へ！京プラン2025(京都市基本計画)	(推進施策) 都市の活力・レジリエンスの向上に向けた道路整備
〇〇整備方針	〇〇に掲げる〇〇の達成
〇〇プラン	〇〇プランに基づく、〇〇の実施

(4) 指標による評価

(便益と費用の単位:億円)

事業の投資効果	費用便益分析 B／C	=	1.00	便益(B)	=	100.0	費用(C)	=	100.0
客観的評価指標	効果を評価した指標数	=	10						

3 事業進捗の見込みの視点

事業の実施のめど 進捗の見通し等	
---------------------	--

4 対応方針案

(該当する項目は, □を■に変更)

対応方針	☐ 事業継続 ☐ 事業中止 ☐ 事業休止 ☐ 事業再開
理由	

【資料等】

説明資料(写真等)

《客観的評価指標》

〇〇事業 〇〇〇線

(1) 京都市基本計画における政策の体系と政策分野

うるおい	1 環境	2 人権・男女共同参画	3 市民生活とコミュニティ	4 市民生活の安全	5 文化	6 スポーツ	
活性化	7 産業・商業	8 観光	9 農林業	10 大学	11 国際		
すこやか	12 子ども・若者支援	13 障害者福祉	14 地域福祉	15 健康長寿	16 保健衛生・医療	17 学校教育	18 生涯学習
まちづくり	19 危機管理・防災・減災	20 歩くまち	21 土地・空間利用と都市機能配置	22 景観	23 建築物	24 住宅	25 道と公園・緑
	26 消防・救急	27 くらしの水					

(2) 事業の効果や必要性を評価するための指標 《道路・街路事業》

(該当する項目は、口を■に変更、指標チェックの根拠を記入)

政策分野とキーワード			指標	指標チェックの根拠
うるおい	環境	脱炭素・省エネルギー 環境の保全	☐ 自動車からのCO2(二酸化炭素)、NOX(窒素酸化物)、SPM(浮遊粒子状物質)排出量削減が期待される	渋滞緩和(走行速度の向上)による効果
			☐ 管理施設の省エネルギー性能が向上する	LED道路照明灯の設置等
			☐ 自動車騒音の抑制が期待される	排水性舗装の採用
			☐ 都市の緑化が推進され、ヒートアイランド現象の緩和や地球温暖化防止が期待される	街路樹・植栽帯の設置
	市民生活の安全	交通事故の防止 道路の安全性向上	☐ 安全な歩行空間を確保する	歩道の新設・拡幅、車両防護柵・街路樹の設置
			☐ 通行区分が整理され、交通事故の減少が期待できる	交差点形状の改良 自転車走行推奨帯の設置
			☐ 夜間の視認性が向上し、安全性向上が期待される	道路照明の設置、排水性舗装の採用
活性化	産業・商業・農林業	交通の安定性向上	☐ 移動時間のばらつき(渋滞による遅延等)が縮小し、到着時間の信頼性向上が期待される	渋滞緩和(走行速度の向上)による効果
	観光	アクセス性の向上	☐ 主要な観光地・レクリエーション施設等へのアクセス向上が期待される	〇〇寺
	大学・国際	アクセス性の向上	☐ 大学関係施設や国際的イベント会場等へのアクセス向上が期待される	〇〇大学・〇〇会館
すこやか	障害者福祉	道路の移動円滑化	☐ 道路のバリアフリー化により、誰もが移動しやすい歩行空間を確保する	歩道の勾配改善、点字ブロックの設置
	学校教育	通学路の安全対策	☐ 歩車分離された安心・安全な通学路として利用することができる	〇〇小学校
	危機管理・防災・減災	地域防災力の向上	☐ 避難所・広域避難場所へのアクセス向上が期待される	〇〇公園・〇〇グラウンド
			☐ 緊急輸送道路またはその補助道路としての活用が期待される	〇〇線(第〇次緊急輸送道路)
			☐ 通行止めによる孤立集落の減少が期待される	〇〇地区
			☐ 主要な道路が通行止めになった場合の大幅な迂回の代替道路として利用することができる	〇〇道路の代替道路として利用可

まちづくり			☐ 防災点検・震災点検の要対策箇所、架替が必要な老朽橋梁における通行規制等が解消される	道路拡幅、斜面の落石・崩壊対策による効果
			☐ 異常気象時規制区間、事前通行規制区間、特殊通行規制区間または冬季交通障害区間が解消される	道路拡幅、斜面の落石・崩壊対策による効果
			☐ 災害時の緊急車両の通行確保が期待される	道路の新設・拡幅、電柱の地中化
	歩くまち	公共交通優先のまちづくり 歩行の快適性向上 自転車利用環境の充実	☐ 鉄道駅やバスターミナル、パーク＆ライド駐車場へのアクセス向上が期待される	〇〇駅、〇〇駐車場
			☐ 路線バスの利便性や定時運行の信頼性の向上が期待されるまたは新たなバス路線の運行が期待される	〇〇バス
			☐ 歩行者の快適性向上が期待される	歩道の新設・拡幅・勾配改善、透水性舗装の採用
			☐ 自転車利用者の快適性向上が期待される	自転車走行推奨帯の設置
	土地・空間利用と都市機能配置	効果的な土地利用	☐ 周辺土地の利用促進が期待される	道路の新設・拡幅、関連事業の推進等
			☐ 特色あるまちづくりに資することが期待される	シンボルロード、商店街における道路整備等
	景観	景観の保全・向上	☐ 周辺の自然や歴史的景観と調和した施設整備により、景観の保全を図る	石畳風舗装や景観型資材の採用等
			☐ 周辺の景観向上を図る	電柱の地中化、街路樹の設置、夜間照明づくり等
	道と公園・緑	円滑な移動・輸送の確保 都市の活力向上	☐ 現道等の交通不能区間・離合困難箇所を解消する（又は代替路として利用できる）	〇〇箇所
			☐ 移動時間の短縮、細街路への通過交通の減少が期待できる	〇〇箇所の渋滞緩和
			☐ 高速道路等の広域道路ネットワークまたは主要幹線道路とのアクセス向上が期待される	〇〇道路
			☐ 地域の主要な施設（区役所・支所等）へのアクセス向上が期待される	〇〇区役所
			☐ 地域の課題の解消が期待される（要望への対応、地域間の交流促進等）	〇〇地域
			☐ 上下水道・都市ガス等のライフラインの整備（更新・耐震化）が促進される	〇〇管が計画あり
	消防・救急	命と暮らしを守る取組	☐ 救急医療施設（二次）へのアクセス向上が期待される	〇〇病院
			☐ 住宅密集地等で、消防・救急活動に支障がある地区が解消する	〇〇町
			☐ 火災発生時の延焼を遮断する効果が期待できる	幅員〇mの道路整備
	くらしの水	雨に強いまちづくり	☐ 雨水流出抑制効果が期待できる	透水性舗装の採用
その他の効果や必要性（事業特有の効果等）			☐	
			☐	
特記事項	上記指標に関する特記事項や補足説明、環境・景観への配慮、市民協働の取組 等			